

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = ジャクソンホール会議で議長は何を語るか

2022年8月22日

米国の今後の金融政策動向への見通しが揺れています。6月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で1994年11月以来、約27年7か月ぶりとなる75BP(0.75%)の利上げを実施した米連邦準備制度理事会(FRB)。先月のFOMCでも75BPの利上げを継続。歴史的な物価高へしっかりと対応していく姿勢を示しました。9月以降の利上げについては、大幅な利上げ姿勢は継続も、その利上げ幅が75BPになるのか50BPに縮めるのかについては見方が分かれるところとなっています。

先月末に発表された米第2四半期GDP速報値が予想外にマイナスとなり、二期連続でのマイナス成長でテクニカルリセッション入りしたことなどを受けて、一時は75BPの利上げ継続に懐疑的な見方が広がりました。もっとも、今月に入って発表された米雇用統計やISM景況感調査などの強さもあり、75BPの利上げ継続期待が再び浮上。しかし、10日に発表された米消費者物価指数の伸びが予想に届かなかったことで、再び後退と見通しが不安定に。米経済自体は堅調で、先週17日に発表された米小売売上高が強く出たこともあり、大幅利上げに耐えうる米経済状況の中で、しっかりとした利上げを行って物価高を抑えるべきではとの見通しも維持されています。

米短期金利先物市場動向から見た利上げ確率を示すCMEFedWatchを確認すると、50BP(0.50%)利上げ見通しが53%、75BP利上げ見通しが47%と、ほぼ拮抗。次回のFOMCまでに8月の米雇用統計や消費者物価指数の発表予定があることを考えると、どちらになってもおかしくないという状況です。

こうした中、市場は今週開催されるジャクソンホール会議に注目しています。同会議は、カンザスシティ連銀が主催し毎年8月下旬にワイオミング州ジャクソンホールで開催される経済シンポジウムのことです。各国の中央銀行要人や金融関係者が多数集まることで知られており、また、FRB議長が講演などで今後の方針を語るケースが多々見られます。

新型コロナの関係で一昨年、昨年とオンライン開催となっていましたが、今年は25日から27日の日程で対面での開催が決定しました。今年の会議のテーマは「Reassessing Constraints on the Economy and Policy」(経済と政策における制約の再評価)です。シンポジウムの詳細なスケジュールは25日の開催初日に公表となりますが、目玉となるパウエル議長の講演スケジュールは発表されており、現地時間26日午前10時(日本時間同日午後11時)からとなっています。議長はシンポジウムのテーマに沿う形で、経済見通しなどについて語る見通しとなっています。市場は議長が今年後半から来年にかけての金融政策の展望をいかに語るかに注目しています。また、現状の物価高に対する評価と今後の見通しなどについても注目が集まるところです。

前回のFOMCでFRBは今後の利上げについて「データ次第」としました。75BPの利上げ幅はFRB自体が指摘しているように本来は異例です。それだけに利上げ幅縮小の口実を探しているのではとの見通しがありました。また、金利市場動向を見る限り、今年中もしくは来年の早い段階までは積極的な利上げを実施も、その後は物価高の落ち着きに合せて利下げに向かうのではとの思惑も見られます。

こうした市場の見通しに沿った姿勢が示されればドル売りに。市場の見通しに沿わ

ず、積極的な利上げで物価を抑える強い姿勢を示せばドル買いに反応しそうなところで
す。次回の利上げ幅見通しはほぼ二分されていますが、その先、年内での利上げ幅の合
計見通しという点でみると、9月以降残り3回のFOMCで合計1.25-1.50%の利上げとい
う見通しが大勢に。ジャクソンホール会議でのパウエル議長発言により、現状では2割に
満たない1.50-1.75%以上の利上げ見通しが強まるようだと、ドル買いの流れを誘いそ
うです。ドル円は140円台に向けた動きが強まる可能性があります。

山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーと
して活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担
当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情
報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者が
これらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転
用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポート
ご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送
信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。